

漢方も使い、自然栽培

耕作放棄地、無農薬で

古民家民泊・農業体験も

加須市の誠農社

【埼玉】加須市の株式会社誠農社は、水稲10畝、イチジク120本、大豆50畝などを栽培し、従業員は18人。多くの人に農業を身近に感じてもらうと、自然栽培の勉強会や古民家を再生した農家民宿な



漢方を生かす誠農社代表取締役の藤田さん

どに取り組んでいる。

同社の水稲栽培について、「農薬・化学肥料を一切使わずに、作物の自然治癒力を手助けする漢方を土壌に散布し、病気にかかる前に予防する農法。漢方特有の匂いで害虫を寄せ付けない効果もある」と同社代表取締役の藤田誠二さん（60）は解説する。

同社では、地域の農地を守りたいという思いから耕作放棄地を預かり、農薬を使わない田んぼを増やす活動や、田んぼとしての姿を守る活動を、地域の人たちと「豊かな田んぼを守り隊」という形で行っている。

また、古民家民泊は、代々受け継がれてきたものを残していきたいという思いで始めた。古民家の持つ安心感や温かさなどを、普段の暮らしでは得られない体験の中で感じてもらいたいという。宿泊者はオプショナルでイチジクの収穫や、旬野菜の収穫・植え付け、田植え体験など、シーズンにあわせた農作業も体験できる。

藤田さんは「農業は地域と日本を元気にできる生涯アイテム」と捉えて農業の魅力を伝えていく。「今後はいろいろな人に農ある生活を広めたい。農業に携わりたいと思う人が増え、農業で心身ともに豊かになってくれれば。ゆくゆくは日本で作ったお米を海外にも広めたい」と話した。